

5. NIPPON防災資産の認定候補案

淀川河川事務所

- 淀川資料館は、日本初の「河川博物館」として、過去に起きた大洪水の歴史や、明治時代に行われた淀川改良工事に関する文献や図面などを所蔵しており、「くらしと淀川」「淀川の歴史」「淀川の環境」をテーマに展示を行う”河川広報施設”
- 流域内広報施設同士での連携を継続実施しており、地域連携のもと災害伝承をはじめとした取組を推進している。
- 来館者への説明(淀川の歴史・過去の洪水等)を行っている。

■ 淀川資料館における各種取組の内容

- ・ 淀川改修の貴重な歴史的資料を保存、展示。
- ・ 流域内の学校や各種団体から、施設見学の要望が多く寄せられ年20回程度、団体説明を実施。
説明では淀川の歴史や洪水の歴史等をわかりやすく解説。
- ・ 上記の他、夏期は夏休みの小学生をターゲットにした企画展示、秋期は流域内広報施設と連携した企画展示を行う等、効果的な広報に努めている。



団体説明状況

2024年度淀川資料館夏期企画展示



■ 流域内広報施設同士での連携

- ・ 流域内広報施設との連携を継続的に実施（合同企画展等）
- ・ 施設連携により、多くの住民を巻き込むとともに、合同企画展と史跡巡り等のイベントを同時開催し、来館者に深く歴史を感じてもらうような取組を実施。



淀川資料館



門真歴史資料館



鍵屋資料館